

# 廃プラのフラフ化プラント新設

◎(株)アールテック

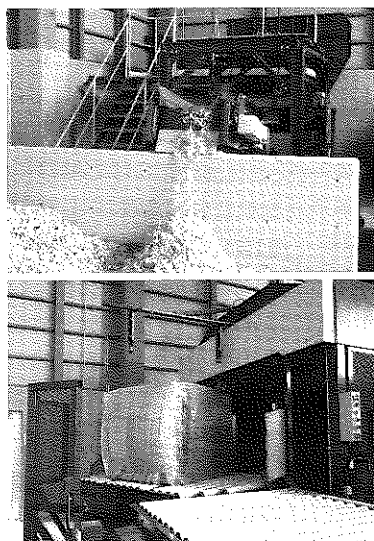
解体工事と廃棄物の総合リサイクルが主力で、伐採工事や再生砕石・木質チップの販売も手掛ける(株)アールテック(山形県寒河江市大字日田字中向400、後藤重喜代表取締役社長、☎0237-86-1771)は、自社リサイクルセンターの敷地を拡張し、廃プラスチック類からフラフを生産する再資源化プラントを新設した。

既存施設に隣接する約1万3500m<sup>2</sup>の土地をほぼ正方形の整形地となるよう、9年掛かりで順次購入し、延床面積約1300m<sup>2</sup>の専用建屋を設け、屋内に一軸破碎機と圧縮梱包機等で構成するフラフ化ラインを整備した。廃プラスチック類の破碎で日量約5t、圧縮梱包で同約5tの処理能力がある。

塩ビなどフラフ不適物は、あらかじめ自社の既存選別施設で選別破碎し、受入基準を満たした良品質のプラを新プラントに搬入する。重機に装着したつかみ機で、上部の投入口から一軸破碎機へ送る。破碎機には斜め上方向からのプッシャーが取り付けられ、投入プラが破碎機上で空回りしないよう緩やかに押し込み、処理効率を向上させている。破碎後のプラは30mmアンダーのスクリーンを経て、重機によるハンドリングおよび圧縮成形に最適な均一形状のフラフ燃料を得る。

フラフは、重機で圧縮梱包機へ投入し、約2m角の正立方体に成形し、ポリエチレンフィルムで自動ラッピングを行い、再生燃料用として製紙・セメント工場へ出荷する。

リサイクルセンターは、今回の新プラントのほか、廃プラスチック類の選別破碎、がれき類の選別破碎、木質チップ等の施設群



㊤1軸破碎機で生産されるフラフ

㊦圧縮梱包後にラッピングされたフラフ燃料

で構成し、建物の敷地境界は万が一の近接河川の氾濫に備えて、全体を高さ4mの擁壁で囲んでいる。今後は、がれき類のプラント更新も予定している。解体工事と廃棄物リサイクルの2分野の主力事業を持つことで、これまでも経営基盤の安定・強化を重ねてきた。

地域のCSR活動にも積極的で、毎年の地元中学校への寄付のほか、警察・消防との会社敷地内にて災害救出訓練、解体建物を使用した災害対応訓練も行っており、また、山形のプロサッカー・バスケットボールチームと地元少年との交流試合等も開催。2024年6月には寒河江駅前に屋外のバスケットボールコート「3×3basketball court free park」を開設し、子供たち等が週末を含めスポーツを楽しめる場として提供している。地道な地域活動等も奏功している様子で、若年層等の雇用も順調に推移し人手不足等は生じていないという。